# 第三中学校区の適正配置案

# 第三中学校区の適正配置案(1)

# 星田駅北のうち星田北7丁目 ⇒ 星田小学校区(1)

星田小学校の建て替え、または、

現況校区図

旭小学校

(学校数 4)

第四中学校

藤が尾小学校

星田北7丁目(黒破線内黄色の区域)では、 162戸程度の住宅開発が予定されている。

星田北7丁目の住宅開発 の影響で、適正規模で

推移する見込み

~第三中学校区の課題~

星田小学校

将来的に小規模化する見込みである。

#### 妙見坂小学校

将来的に小規模化する見込みである。

#### 旭小学校

将来的に小規模化する見込みである。

※学校施設については、星田小学校、妙見坂小学校、 旭小学校、第三中学校のすべての学校施設が築後 40年以上経過する校舎棟があるなど、老朽化が 進んでいる。

(学校数 4)

メリット

改修をした場合

・将来的な星田小学校の小規模化が解消される。

デメリット

- 星田小学校は敷地面積が11,169㎡ 屋外運動場面積が7.152㎡と小さい。
- 星田小学校の増床が必要となる見込み。

#### 【確認事項】

星田北7丁目の住宅開発の影響により、星田小学校の小規模化という課題は解 消される見込みであるが、施設的には受け入れが困難なため、増床が必要と見込 まれるが、敷地面積が小さいため新たな棟の設置は難しく、築後57年経過という 学校施設の考朽化の課題も加味すると、施設の建て替えが考えられる。

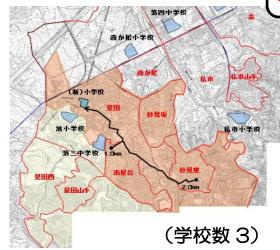
#### 【課題】

- ・妙見坂小学校は将来的に小規模化する見込みである。
- 旭小学校は将来的に小規模化する見込みである。

(星田小学校敷地面積:11,169㎡)

星小・妙小を統合し、

星小敷地に新しい小学校を設置した場合



#### メリット

・将来的な妙見坂小学校の小規模化が解消される。

#### デメリット

- 星田小学校敷地は敷地面積が小さい。
- ・通学距離が延びる地域がある。(最長約2.0km)
- ・将来的に旭小学校が小規模化する見込みである。



星小・妙小を統合し、 妙小敷地に新しい小学校を設置した場合

#### メリット

- ・将来的な妙見坂小学校の小規模化が解消される。
- 妙見坂小学校敷地は比較的敷地面積が大きい。

#### デメリット

- 通学距離が延びる地域がある。 (最長約1.6km) (星田5丁目や星田北7丁目などの地域では、すぐ近くにある旭小 学校を通過しての通学になる。)
- ・将来的に旭小学校が小規模化する見込みである。

(星田小学校敷地面積:11,169㎡)

(妙見坂小学校敷地面積:25,271㎡ うち、3,341㎡は実験実習地)

# 第三中学校区の適正配置案(2)

# ◆ 星田駅北のうち星田北7丁目 ⇒ 星田小学校区(2)

星田小学校の建て替え、または、

現況校区図

(学校数 4)

第四中学校

藤が尾小学校

星田北7丁目(黒破線内黄色の区域)では、 162戸程度の住宅開発が予定されている。

> 星田北7丁目の住宅開発 の影響で、適正規模で 推移する見込み

#### ~第三中学校区の課題~

星田小学校

将来的に小規模化する見込みである。

#### 妙見坂小学校

将来的に小規模化する見込みである。

#### 旭小学校

将来的に小規模化する見込みである。

※学校施設については、星田小学校、妙見坂小学校、 旭小学校、第三中学校のすべての学校施設が築後 40年以上経過する校舎棟があるなど、老朽化が 進んでいる。

(学校数 4)

メリット

改修をした場合

・ 将来的な星田小学校の小規模化が解消される。

デメリット

- ・星田小学校は敷地面積が11,169㎡ 屋外運動場面積が7,152㎡と狭い。
- 星田小学校の増床が必要となる見込みである。

#### 【確認事項】

星田北7丁目の住宅開発の影響により、星田小学校の小規模化という課題は解消される見込みであるが、施設的には受け入れが困難なため、増床が必要と見込まれるが、敷地面積が小さいため新たな棟の設置は難しく、築後57年経過という学校施設の老朽化の課題も加味すると、施設の建て替えが考えられる。

#### 【課題】

- ・妙見坂小学校は将来的に小規模化する見込みである。
- 旭小学校は将来的に小規模化する見込みである。

星小・旭小を統合し、

(星田小学校敷地面積:11,169㎡)

旭小学校

星小・旭小を統合し、

星小敷地に新しい小学校を設置した場合

第四中学校 書が定 場がに小学校 最かに小学校 登見版・小学校 第二中学校 事星台 を見東 全型の を見東 を見東 を見東 を見東

(星田小学校敷地面積:11.169㎡)

#### メリット

- ・将来的な旭小学校の小規模化が解消される。
- ・学校間の距離が近接しているため、通学距離が大きく 延びる地域がない。(最長約2.2km)

#### デメリット

- 星田小学校敷地は敷地面積が小さい。
- ・将来的に妙見坂小学校が小規模化する見込みである。

#### 学校統合案(4)



#### メリット

旭小敷地に新しい小学校を設置した場合

- ・将来的な旭小学校の小規模化が解消される。
- ・学校間の距離が近接しているため、通学距離が大きく 延びる地区がない。(最長約2.0km)
- 旭小学校敷地は隣接する旧給食センター敷地(1,322㎡) を活用することで敷地面積が大きくなる。

#### デメリット

・将来的に妙見坂小学校が小規模化する見込みである。

# 第三中学校区の適正配置案(3)

# 星田駅北のうち星田北7丁目 ⇒ 星田小学校区(3)

星田小学校の建て替え、または、

現況校区図

(学校数 4)

第四中学校

藤が尾小学校

星田北7丁目(黒破線内黄色の区域)では、 162戸程度の住宅開発が予定されている。

> 星田北7丁目の住宅開発 の影響で、適正規模で 推移する見込み

~第三中学校区の課題~

星田小学校

将来的に小規模化する見込みである。

#### 妙見坂小学校

将来的に小規模化する見込みである。

#### 旭小学校

将来的に小規模化する見込みである。

※学校施設については、星田小学校、妙見坂小学校、 旭小学校、第三中学校のすべての学校施設が築後 40年以上経過する校舎棟があるなど、老朽化が 進んでいる。

(学校数 4)

メリット

改修をした場合

・将来的な星田小学校の小規模化が解消される。

デメリット

- 星田小学校は敷地面積が11,169㎡ 屋外運動場面積が7.152㎡と狭い。
- 星田小学校の増床が必要となる見込みである。

#### 【確認事項】

星田北7丁目の住宅開発の影響により、星田小学校の小規模化という課題は解 消される見込みであるが、施設的には受け入れが困難なため、増床が必要と見込 まれるが、敷地面積が小さいため新たな棟の設置は難しく、築後57年経過という 学校施設の考朽化の課題も加味すると、施設の建て替えが考えられる。

#### 【課題】

- ・妙見坂小学校は将来的に小規模化する見込みである。
- 旭小学校は将来的に小規模化する見込みである。

妙小・旭小を統合し、

妙小・旭小を統合し、

妙小敷地に新しい小学校を設置した場合

・妙見坂小学校敷地は比較的敷地面積が大きい。

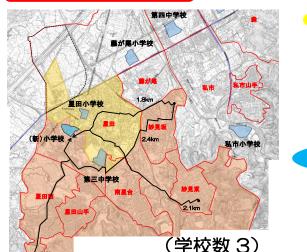
藤が尾小学校 (学校数3)

(妙見坂小学校敷地面積:25.271㎡

うち、3,341㎡は実験実習地)

- 通学距離が2kmを超える地域がある。 (最長約2.6km) (星田4丁目や星田6丁目などの地域では、すぐ近くにある 星田小学校を通過しての通学となる。)
- 地域がある。

#### 学校統合案(6



(旭小学校敷地面積:19.735㎡)

#### メリット

旭小敷地に新しい小学校を設置した場合

- ・ 将来的な妙見坂小学校及び旭小学校の小規模化が解消される。 (第三中学校区の各学校で長期的に適正規模となる見込み。)
- 旭小学校敷地は隣接する旧給食センター敷地(1,322㎡) を活用することで敷地面積が大きくなる。

#### デメリット

- 通学距離が2kmを超える地域がある。 (最長約2.4km)
- 他の小学校区をまたいでの、または、迂回しての通学となる。 地域がある。

#### メリット ・将来的な妙見坂小学校及び旭小学校の小規模化が解消される。 (第三中学校区の各学校で長期的に適正規模となる見込み。)

(星田小学校敷地面積:11,169㎡)

デメリット

他の小学校区をまたいでの、または、迂回しての通学となる。

# 第三中学校区の適正配置案(4)

# 星田駅北のうち星田北7丁目 ⇒ 星田小学校区(4)

星田小学校の建て替え、または、

現況校区図

(学校数 4)

星田北7丁目(黒破線内黄色の区域)では、 162戸程度の住宅開発が予定されている。

> 星田北7丁目の住宅開発 の影響で、適正規模で 推移する見込み

~第三中学校区の課題~

星田小学校

将来的に小規模化する見込みである。

妙見坂小学校

将来的に小規模化する見込みである。

旭小学校

将来的に小規模化する見込みである。

※学校施設については、星田小学校、妙見坂小学校、 旭小学校、第三中学校のすべての学校施設が築後 40年以上経過する校舎棟があるなど、老朽化が 進んでいる。

(学校数 4)

メリット

改修をした場合

・将来的な星田小学校の小規模化が解消される。

デメリット

- 星田小学校は敷地面積が11,169㎡ 屋外運動場面積が7.152㎡と狭い。
- 星田小学校の増床が必要となる見込みである。

#### 【確認事項】

星田北7丁目の住宅開発の影響により、星田小学校の小規模化という課題は解 消される見込みであるが、施設的には受け入れが困難なため、増床が必要と見込 まれるが、敷地面積が小さいため新たな棟の設置は難しく、築後57年経過という 学校施設の考朽化の課題も加味すると、施設の建て替えが考えられる。

#### 【課題】

- ・妙見坂小学校は将来的に小規模化する見込みである。
- 旭小学校は将来的に小規模化する見込みである。

星小・妙小・旭小を統合し、 星小敷地に新しい小学校を設置した場合



#### メリット

・将来的な妙見坂小学校及び旭小学校の小規模化が解消される。

#### デメリット

- 通学距離が2kmを超える地域がある。 (最長約2.2km)
- (新)小学校で適正規模を上回る見込みである。
- 星田小学校敷地は、敷地面積が小さい。

星小・妙小・旭小を統合し、 妙小敷地に新しい小学校を設置した場合



#### メリット

- ・将来的な妙見坂小学校及び旭小学校の小規模化が解消される。
- ・妙見坂小学校敷地は比較的敷地面積が大きい。

#### デメリット

- 通学距離が2km程度になる地域がある。 (最長約2.6km)
- (新)小学校で適正規模を上回る見込みである。

(星田小学校敷地面積:11,169㎡)

(学校数 2)

(星田小学校敷地面積:11,169㎡)

(妙見坂小学校敷地面積:25.271㎡ うち、3,341㎡は実験実習地)

# 第三中学校区の適正配置案(5)

# 星田駅北のうち星田北7丁目 ⇒ 星田小学校区(5)

星田小学校の建て替え、または、

現況校区図

(学校数 4)

第四中学校

藤が尾小学校

星田北7丁目(黒破線内黄色の区域)では、 162戸程度の住宅開発が予定されている。

~第三中学校区の課題~

星田小学校

将来的に小規模化する見込みである。

#### 妙見坂小学校

将来的に小規模化する見込みである。

#### 旭小学校

将来的に小規模化する見込みである。

星田北7丁目の住宅開発の影響により、星田小学校の小規模化という課題は解 消される見込みであるが、施設的には受け入れが困難なため、増床が必要と見込 まれるが、敷地面積が小さいため新たな棟の設置は難しく、築後57年経過という

学校施設の考朽化の課題も加味すると、施設の建て替えが考えられる。

※学校施設については、星田小学校、妙見坂小学校、 旭小学校、第三中学校のすべての学校施設が築後 40年以上経過する校舎棟があるなど、老朽化が 進んでいる。

(学校数 4)

藤が尾小学校

メリット

改修をした場合

・将来的な星田小学校の小規模化が解消される。

デメリット

- 星田小学校は敷地面積が11,169㎡ 屋外運動場面積が7.152㎡と狭い。
- 星田小学校の増床が必要となる見込みである。

#### 【課題】

【確認事項】

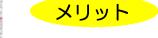
星田北7丁目の住宅開発 の影響で、適正規模で

推移する見込み

- ・妙見坂小学校は将来的に小規模化する見込みである。
- 旭小学校は将来的に小規模化する見込みである。

(星田小学校敷地面積:11,169㎡)

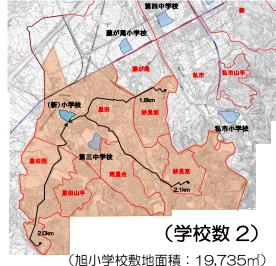
星小・妙小・旭小を統合し、 旭小敷地に新しい小学校を設置した場合



- ・将来的な妙見坂小学校及び旭小学校の小規模化が解消される。
- 旭小学校敷地は隣接する旧給食センター敷地(1,322㎡)を活用することで敷地面積が大きくなる。

- 通学距離が2kmを超える地域がある。(最長約2.1km)
- (新)小学校で適正規模を上回る見込みである。





# 第三中学校区の適正配置案(6)

# 星田駅北のうち星田北7丁目 ⇒ 星田小学校区(6)

星田小学校の建て替え、または、

現況校区図

(学校数 4)

第四中学校

藤が尾小学校

星田北7丁目(黒破線内黄色の区域)では、 162戸程度の住宅開発が予定されている。

> 星田北7丁目の住宅開発 の影響で、適正規模で 推移する見込み

#### ~第三中学校区の課題~

#### 星田小学校

将来的に小規模化する見込みである。

#### 妙見坂小学校

将来的に小規模化する見込みである。

#### 旭小学校

将来的に小規模化する見込みである。

※学校施設については、星田小学校、妙見坂小学校、 旭小学校、第三中学校のすべての学校施設が築後 40年以上経過する校舎棟があるなど、老朽化が 進んでいる。

(学校数 4)

メリット

改修をした場合

・将来的な星田小学校の小規模化が解消される。

デメリット

- 星田小学校は敷地面積が11,169㎡ 屋外運動場面積が7.152㎡と狭い。
- 星田小学校の増床が必要となる見込みである。

#### 【確認事項】

星田北7丁目の住宅開発の影響により、星田小学校の小規模化という課題は解 消される見込みであるが、施設的には受け入れが困難なため、増床が必要と見込 まれるが、敷地面積が小さいため新たな棟の設置は難しく、築後57年経過という 学校施設の考朽化の課題も加味すると、施設の建て替えが考えられる。

#### 【課題】

- ・妙見坂小学校は将来的に小規模化する見込みである。
- 旭小学校は将来的に小規模化する見込みである。

(星田小学校敷地面積:11,169㎡)

星小・妙小・三中を統合し、 三中敷地に新しい小中学校を設置した場合

#### 小中学校統合案(1)



#### メリット

- ・将来的な妙見坂小学校の小規模化が解消される。
- 第三中学校敷地は比較的敷地面積が大きい。

#### デメリット

- 通学距離が延びる地域がある。(最長約1.5km)
- ・将来的に旭小学校が小規模化する見込みである。
- ・小中一貫教育を行う上で、中学校区内の小学生の間に 教育機会等の不均等が生じるおそれがある。

妙小・旭小・三中を統合し、

三中敷地に新しい小中学校を設置した場合

#### 小中学校統合案(2)



#### メリット

- ・将来的な妙見坂小学校及び旭小学校の小規模化が解消される。 ((新)中学校区の各学校で長期的に適正規模となる見込み。)
- 第三中学校敷地は比較的敷地面積が大きい。

#### デメリット

- 通学距離が延びる地域がある。(最長約20km)
- ・ 小中一貫教育を行う上で、中学校区内の小学生の間に 教育機会等の不均等が生じるおそれがある。

(第三中学校敷地面積:23.095㎡)

(第三中学校敷地面積:23.095m²)

# 第三中学校区の適正配置案(7)

# ◆ 星田駅北のうち星田北7丁目 ⇒ 星田小学校区(7)

現況校区図

旭小学校

(学校数 4)

第四中学校

藤が尾小学校

星田北7丁目(黒破線内黄色の区域)では、 162戸程度の住宅開発が予定されている。 ~第三中学校区の課題~

星田小学校

将来的に小規模化する見込みである。

#### 妙見坂小学校

将来的に小規模化する見込みである。

#### 旭小学校

将来的に小規模化する見込みである。

※学校施設については、星田小学校、妙見坂小学校、 旭小学校、第三中学校のすべての学校施設が築後 40年以上経過する校舎棟があるなど、老朽化が 進んでいる。

星田小学校の建て替え、または、 改修をした場合

(学校数 4)

メリット

・将来的な星田小学校の小規模化が解消される。

デメリット

- ・星田小学校は敷地面積が11,169㎡ 屋外運動場面積が7,152㎡と狭い。
- 星田小学校の増床が必要となる見込みである。

【確認事項】

星田北7丁目の住宅開発 の影響で、適正規模で

推移する見込み

星田北7丁目の住宅開発の影響により、星田小学校の小規模化という課題は解消される見込みであるが、施設的には受け入れが困難なため、増床が必要と見込まれるが、敷地面積が小さいため新たな棟の設置は難しく、築後57年経過という学校施設の老朽化の課題も加味すると、施設の建て替えが考えられる。

#### 【課題】

- ・妙見坂小学校は将来的に小規模化する見込みである。
- 旭小学校は将来的に小規模化する見込みである。

(星田小学校敷地面積:11,169㎡)

星小・妙小・旭小・三中を統合し、 三中敷地に新しい小中学校を設置した場合

#### 小中学校統合案(3)



(第三中学校敷地面積:23,095㎡)

#### メリット

- ・将来的な妙見坂小学校及び旭小学校の小規模化が解消される。
- 第三中学校敷地は比較的敷地面積が大きい。
- 小中一貫教育の成果を認識しやすい教育環境が確保できる。

- (新)小学校で適正規模を上回る見込みである。
- 通学距離が延びる地域がある。 (最長約2.0km)

# 第三中学校区の適正配置案(8)

# 星田駅北のうち星田北7丁目 ⇒ 旭小学校区(1)

現況校区図

(学校数 4)

第四中学校

藤が尾小学校

星田北7丁目(黒破線内黄色の区域)では、 162戸程度の住宅開発が予定されている。

(学校数 4)

(旭小学校敷地面積:19.735㎡)

藤が尾小学校

星田北7丁目は旭小学校区とし、 旭小学校の増床工事を実施



- 旭小学校敷地は隣接する旧給食センター敷地 (1,322㎡) を活用することで敷地面積が 大きくなる。
- ・推計上最大の約700人規模となるような増床は 可能である。

デメリット

- 星田北7丁目から旭小学校へは、星田小学校区を またいでの通学となる。
- 星田小学校の将来的な小規模化の課題が残る。

#### ~第三中学校区の課題~

#### 星田小学校

将来的に小規模化する見込みである。

#### 妙見坂小学校

将来的に小規模化する見込みである。

#### 旭小学校

将来的に小規模化する見込みである。

※学校施設については、星田小学校、妙見坂小学校、 旭小学校、第三中学校のすべての学校施設が築後 40年以上経過する校舎棟があるなど、老朽化が 進んでいる。

#### 【確認事項】

星田北7丁目の住宅開発の影響により、将来的な(推計上令和17年度まで)旭小 学校の小規模化の懸念は解消されるが、施設的には受け入れが困難なため、将来的 に増床が必要と見込まれる。

#### 【課題】

- 星田小学校は将来的に小規模化する見込みである。
- 妙見坂小学校は将来的に小規模化する見込みである。

※星田小学校施設は建築後57年経過している棟があるなど、老朽化が進んでいる。

星小・妙小を統合し、

メリット

適正規模となる見込み。)

星小敷地に新しい小学校を設置した場合



(星田小学校敷地面積:11,169㎡)

#### デメリット

- 星田小学校敷地は敷地面積が小さい。
- 通学距離が延びる地域がある。 (最長約2.0km)
- 他の小学校区をまたいでの通学となる地域がある。

• 将来的な星田小学校及び妙見坂小学校の小規模化

が解消される。(第三中学校区の各学校で長期的に



(妙見坂小学校敷地面積:25,271㎡ うち、3,341㎡は実験実習地)

#### 星小・妙小を統合し、 妙小敷地に新しい小学校を設置した場合

#### メリット

- 将来的な星田小学校及び妙見坂小学校の小規模化 が解消される。(第三中学校区の各学校で長期的に 適正規模となる見込み。)
- ・妙見坂小学校敷地は比較的敷地面積が大きい。

- 通学距離が延びる地域がある。(最長約1.5km) (星田5丁目などの地域では、すぐ近くにある旭小学校を通過 しての通学になる。)
- 他の小学校区をまたいでの通学となる地域がある。

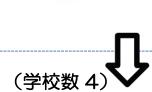
# 第三中学校区の適正配置案(9)

# 星田駅北のうち星田北7丁目 ⇒ 旭小学校区(2)

現況校区図

(学校数 4)

星田北7丁目(黒破線内黄色の区域)では、 162戸程度の住宅開発が予定されている。



(旭小学校敷地面積:19,735㎡)

藤が尾小学校

第四中学校

星田北7丁目は旭小学校区とし、 旭小学校の増床工事を実施

メリット

- 旭小学校敷地は隣接する旧給食センター敷地 (1,322㎡)を活用することで敷地面積が 大きくなる。
- ・推計上最大の約700人規模となるような増床は 可能である。

デメリット

- ・星田北7丁目から旭小学校へは、星田小学校区を またいでの通学となる。
- 早田小学校の将来的な小規模化の課題が残る。

#### ~第三中学校区の課題~

#### 星田小学校

将来的に小規模化する見込みである。

#### 妙見坂小学校

将来的に小規模化する見込みである。

#### 旭小学校

将来的に小規模化する見込みである。

※学校施設については、星田小学校、妙見坂小学校、 旭小学校、第三中学校のすべての学校施設が築後 40年以上経過する校舎棟があるなど、老朽化が 進んでいる。

#### 【確認事項】

星田北7丁目の住宅開発の影響により、将来的な(推計上令和17年度まで)旭小 学校の小規模化の懸念は解消されるが、施設的には受け入れが困難なため、将来的 に増床が必要と見込まれる。

#### 【課題】

- 星田小学校は将来的に小規模化する見込みである。
- 妙見坂小学校は将来的に小規模化する見込みである。

※星田小学校施設は建築後57年経過している棟があるなど、老朽化が進んでいる。



星小・妙小・旭小を統合し、

#### 星小敷地に新しい小学校を設置した場合

メリット

• 将来的な星田小学校及び妙見坂小学校の小規模化が解消される。 (第三中学校区の各学校で長期的に適正規模となる見込み。)

デメリット

- ・星田小学校敷地は敷地面積が小さい。 • 通学距離が延びる地域がある。(最長約2.2km)
- (新) 小学校で適正規模を上回る見込みである。

#### 学校統合案(8)

星小・妙小・旭小を統合し、

妙小敷地に新しい中学校を設置した場合

メリット

- 将来的な星田小学校及び妙見坂小学校の小規模化が解消される。 (第三中学校区の各学校で長期的に適正規模となる見込み。)
- ・通学距離が延びる地域がある。(最長約2.6km) デメリット
  - (新)小学校で適正規模を上回る見込みである。

星小・妙小・旭小を統合し、 旭小敷地に新しい小学校を設置した場合



(旭小学校敷地面積:19,735㎡)

#### メリット

・将来的な星田小学校及び妙見坂小学校の小規模化が解消される。 (第三中学校区の各学校で長期的に適正規模となる見込み。)

- 通学距離が2kmを超える地域がある。 (最長約2.1km)
- (新)小学校で適正規模を上回る見込みである。

# 第三中学校区の適正配置案(10)

# 星田駅北のうち星田北7丁目 ⇒ 旭小学校区(3)

現況校区図

(学校数 4)

星田北7丁目(黒破線内黄色の区域)では、 162戸程度の住宅開発が予定されている。



星田北7丁目は旭小学校区とし、 旭小学校の増床工事を実施

(学校数 4)



(旭小学校敷地面積:19,735㎡)

メリット

- 旭小学校敷地は隣接する旧給食センター敷地 (1,322㎡)を活用することで敷地面積が 大きくなる。
- ・推計上最大の約700人規模となるような増床は

デメリット

- ・星田北7丁目から旭小学校へは、星田小学校区を またいでの通学となる。
- ・星田小学校の将来的な小規模化の課題が残る。

#### ~第三中学校区の課題~

#### 星田小学校

将来的に小規模化する見込みである。

#### 妙見坂小学校

将来的に小規模化する見込みである。

#### 旭小学校

将来的に小規模化する見込みである。

※学校施設については、星田小学校、妙見坂小学校、 旭小学校、第三中学校のすべての学校施設が築後 40年以上経過する校舎棟があるなど、老朽化が 進んでいる。

#### 【確認事項】

星田北7丁目の住宅開発の影響により、将来的な(推計上令和17年度まで)旭小 学校の小規模化の懸念は解消されるが、施設的には受け入れが困難なため、将来的 に増床が必要と見込まれる。

#### 【課題】

- 星田小学校は将来的に小規模化する見込みである。
- 妙見坂小学校は将来的に小規模化する見込みである。

※星田小学校施設は建築後57年経過している棟があるなど、老朽化が進んでいる。

星小・妙小・三中を統合し、 三中敷地に新しい小中学校を設置した場合

#### メリット

- 将来的な星田小学校及び妙見坂小学校の小規模化 が解消される。(第三中学校区の各学校で長期的に 適正規模となる見込み。)
- ・ 第三中学校敷地は比較的敷地面積が大きい。

#### デメリット

- ・通学距離が延びる地域がある。(最長約1.5km))
- ・小中一貫教育を行う上で、中学校区内の小学生の間に 教育機会等の不均等が生じるおそれがある。
- ・他の小学校区をまたいでの通学となる地域がある。



(第三中学校敷地面積:23,095㎡)

星小・妙小・旭小・三中を統合し、 三中敷地に新しい小中学校を設置した場合

#### メリット

- 将来的な星田小学校及び妙見坂小学校の小規模化 が解消される。(第三中学校区の各学校で長期的に 適正規模となる見込み。)
- ・小中一貫教育の成果を認識しやすい教育環境が確保できる。
- 第三中学校敷地は比較的敷地面積が大きい。

#### デメリット

- (新)小学校で適正規模を上回る見込みである。
- 通学距離が延びる地域がある。(最長約2.0km)



(第三中学校敷地面積:23,095㎡)

# 第三中学校区の適正配置案(11)

# 星田駅北全体⇒星田小学校区(1)

現況校区図

(学校数 4)



星田北全体(黒破線内の区域)では、 689戸程度の住宅開発が予定されている。

星田駅北地域は星田小学校区とし、

星田小学校の増床工事を実施

星田北7丁目の住宅開発 の影響で、適正規模で 推移する見込み

#### ~第三中学校区の課題~

星田小学校

将来的に小規模化する見込みである。

#### 妙見坂小学校

将来的に小規模化する見込みである。

#### 旭小学校

将来的に小規模化する見込みである。

※学校施設については、星田小学校、妙見坂小学校、 旭小学校、第三中学校のすべての学校施設が築後 40年以上経過する校舎棟があるなど、老朽化が 進んでいる。



メリット

・将来的な星田小学校の小規模化が解消される。



- ・星田小学校は敷地面積が11,169㎡、屋外運動場面積が7,152㎡と狭い。 推計上最大の約700人規模となるような増床は困難である。
- ・中学校区をまたぐ校区変更となる地域がある。



#### 星田小学校の児童数 (J) \* 400 350 250 200 150 100 児童数(星田小(住宅開発含まない)) 児童数(星田小(住宅開発(星田駅北A)含む)) H28 H30 R2 R4 R6 R8 R10 R12 R14 R16 R18 R20 R22 R24 R26

妙小・旭小を統合し、

妙小敷地に新しい小学校を設置した場合

# (学校数 3)

(妙見坂小学校敷地面積:25.271㎡

うち、3,341㎡は実験実習地)

#### デメリット

- 通学距離が2kmを超える地域がある。(最長約2.6km) (星田4丁目や星田6丁目などの地域では、すぐ近くにある星田 小学校を通過しての通学となる。)
- 他の小学校区をまたいでの、または、迂回しての通学と なる地域がある。

# 薬が黒小学校 (学校数 3) (旭小学校敷地面積:19.735㎡)

#### メリット

旭小敷地に新しい小学校を設置した場合

妙小・旭小を統合し、

- ・将来的な妙見坂小学校及び旭小学校の小規模化が解消される。 (第三中学校区の各学校で長期的に適正規模となる見込み。)
- 旭小学校敷地は隣接する旧給食センター敷地(1,322㎡) を活用することで敷地面積が大きくなる。

#### デメリット

- 通学距離が2kmを超える地域がある。 (最長約2.4km) (星田4丁目や星田6丁目などの地域では、すぐ近くにある星田 小学校を通過しての通学となる。)
- 他の小学校区をまたいでの、または、迂回しての通学と なる地域がある。

メリット

・将来的な妙見坂小学校及び旭小学校の小規模化が解消される。 (第三中学校区の各学校で長期的に適正規模となる見込み。)

・妙見坂小学校敷地は比較的敷地面積が大きい。

# 第三中学校区の適正配置案(12)

# 星田駅北全体⇒星田小学校区(2)

現況校区図

(学校数 4)



星田北全体(黒破線内の区域)では、 689戸程度の住宅開発が予定されている。

星田北7丁目の住宅開発 の影響で、適正規模で 推移する見込み

#### ~第三中学校区の課題~

星田小学校

将来的に小規模化する見込みである。

#### 妙見坂小学校

将来的に小規模化する見込みである。

#### 旭小学校

将来的に小規模化する見込みである。

※学校施設については、星田小学校、妙見坂小学校、 旭小学校、第三中学校のすべての学校施設が築後 40年以上経過する校舎棟があるなど、老朽化が 進んでいる。

(学校数 4)

メリット

・将来的な星田小学校の小規模化が解消される。

デメリット

- 星田小学校は敷地面積が11,169㎡、屋外運動場面積が7,152㎡と狭い。 推計上最大の約700人規模となるような増床は困難である。
- ・中学校区をまたぐ校区変更となる地域がある。



#### 星田小学校の児童数 (X) 400 350 300 250 200 150 100 児童数(星田小(住宅開発含まない)) 児童数(星田小(住宅開発(星田駅北4)含む)) H28 H30 R2 R4 R6 R8 R10 R12 R14 R16 R18 R20 R22 R24 R26

#### 小中学校統合案(5)

妙小・旭小・三中を統合し、

三中敷地に新しい小中学校を設置した場合

星田駅北地域は星田小学校区とし、

星田小学校の増床工事を実施

# (学校数 2)

#### メリット

- 将来的な妙見坂小学校及び旭小学校の小規模化が解消される。 (第三中学校区の各学校で長期的に適正規模となる見込み。)
- 第三中学校敷地は比較的敷地面積が大きい。

#### デメリット

- ・通学距離が延びる地域がある。(最長約2.0km)
- ・ 小中一貫教育を行う上で、中学校区内の小学生の間に 教育機会等の不均衡が生じるおそれがある。

星小・妙小・旭小・三中を統合し、 三中敷地に新しい小中学校を設置した場合



#### メリット

- ・将来的な妙見坂小学校及び旭小学校の小規模化が解消
- 第三中学校敷地は比較的敷地面積が大きい。
- 小中一貫教育の成果を認識しやすい教育環境が 確保できる。

#### デメリット

- (新) 小学校で長期的に適正規模を上回る見込みである。
- (第三中学校敷地面積:23.095㎡) ・通学距離が延びる地域がある。(最長約2.0km)

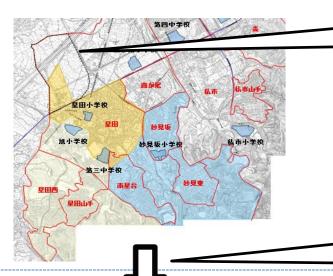
(第三中学校敷地面積:23,095㎡)

# 第三中学校区の適正配置案(13)

# 星田駅北全体⇒ 旭小学校区(1)

現況校区図

(学校数 4)



星田北全体(黒破線内の区域)では、 689戸程度の住宅開発が予定されている。

星田駅北地域は旭小学校区とし、 旭小学校の増床工事を実施

#### (学校数 4)

#### メリット

- ・将来的な旭小学校の小規模化のおそれがなくなる。
- ・旭小学校敷地は隣接する旧給食センター敷地 (1,322㎡) を活用することで敷地面積が大きくなる。

#### デメリット

- ・星田駅北から旭小学校へは、星田小学校区をまたいでの通学となる。
- 星田小学校の将来的な小規模化の課題が残る。

#### ~第三中学校区の課題~

#### 星田小学校

将来的に小規模化する見込みである。

#### 妙見坂小学校

将来的に小規模化する見込みである。

#### 旭小学校

将来的に小規模化する見込みである。

※学校施設については、星田小学校、妙見坂小学校、 旭小学校、第三中学校のすべての学校施設が築後 40年以上経過する校舎棟があるなど、老朽化が 進んでいる。

# (旭小学校敷地面積:19,735㎡)

- ・推計上最大の約700人規模となるような増床は可能である。

星小・妙小を統合し、

メリット

#### • 中学校区をまたぐ校区変更となる地域がある。

#### 旭小学校の児童数 300 200 150 100 児童数(旭小(住宅開発含まない)) 児童数(旭小(住宅開発(星田駅北ム)含む)) H28 H30 R2 R4 R6 R8 R10 R12 R14 R16 R18 R20 R22 R24 R26

#### 星小・妙小を統合し、

妙小敷地に新しい小学校を設置した場合

メリット

適正規模となる見込み。)



### 適正規模となる見込み。)

デメリット

- 星田小学校敷地は敷地面積が小さい。
- 通学距離が延びる地域がある。 (最長約2.0km)

• 将来的な星田小学校及び妙見坂小学校の小規模化

が解消される。(第三中学校区の各学校で長期的に

星小敷地に新しい小学校を設置した場合

他の小学校区をまたいでの通学となる地域がある。



### デメリット

- 通学距離が延びる地域がある。 (最長約1.5km) (星田5丁目などの地域では、すぐ近くにある旭小学校を 通過しての通学になる。)
- 他の小学校区をまたいでの通学となる地域がある。

• 将来的な星田小学校及び妙見坂小学校の小規模化

• 妙見坂小学校敷地は比較的敷地面積が大きい。

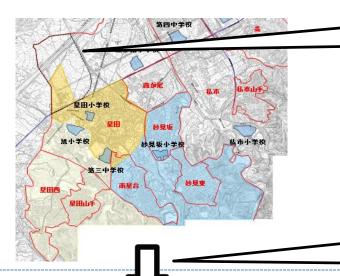
が解消される。(第三中学校区の各学校で長期的に

# 第三中学校区の適正配置案(14)

# 星田駅北全体⇒ 旭小学校区(2)

現況校区図

(学校数 4)



星田北全体(黒破線内の区域)では、 689戸程度の住宅開発が予定されている。

星田駅北地域は旭小学校区とし、 旭小学校の増床工事を実施

#### (学校数 4)

メリット

- ・将来的な旭小学校の小規模化のおそれがなくなる。
- ・旭小学校敷地は隣接する旧給食センター敷地 (1,322㎡) を活用することで敷地面積が大きくなる。

デメリット

- ・星田駅北から旭小学校へは、星田小学校区をまたいでの通学となる。

#### ~第三中学校区の課題~

#### 星田小学校

将来的に小規模化する見込みである。

#### 妙見坂小学校

将来的に小規模化する見込みである。

#### 旭小学校

将来的に小規模化する見込みである。

※学校施設については、星田小学校、妙見坂小学校、 旭小学校、第三中学校のすべての学校施設が築後 40年以上経過する校舎棟があるなど、老朽化が 進んでいる。

# (旭小学校敷地面積: 19,735㎡)

- ・推計上最大の約700人規模となるような増床は可能である。
- 中学校区をまたぐ校区変更となる地域がある。
- 星田小学校の将来的な小規模化の課題が残る。

#### 旭小学校の児童数 (人) 300 250 150 100 児童数(旭小(住宅開発含まない)) 児童数(旭小(住宅開発(星田駅北2)含む)) H28 H30 R2 R4 R6 R8 R10 R12 R14 R16 R18 R20 R22 R24 R26

星小・妙小・三中を統合し、

メリット

三中敷地に新しい小中学校を設置した場合

# (学校数 2)

#### デメリット

・通学距離が延びる地域がある。(最長約1.5km)

・ 第三中学校敷地は比較的敷地面積が大きい。

・小中一貫教育を行う上で、中学校区内の小学生の間に 教育機会等の不均等が生じるおそれがある。

・将来的な星田小学校及び妙見坂小学校の小規模化が解消される。

(第三中学校区の各学校で長期的に適正規模となる見込み。)

星小・妙小・旭小・三中を統合し、 三中敷地に新しい小中学校を設置した場合

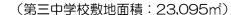
# 藤が尾小学校

#### メリット

- ・将来的な星田小学校及び妙見坂小学校の小規模化 が解消される。
- 第三中学校敷地は比較的敷地面積が大きい。
- 小中一貫教育の成果を認識しやすい教育環境が 確保できる。

#### デメリット

- (新) 小学校で適正規模を上回る見込みである。
- 通学距離が延びる地域がある。 (最長約2.0km)

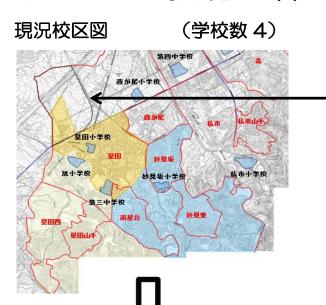


(第三中学校敷地面積:23,095㎡)

(学校数 1)

# 第三中学校区の適正配置案(15)

# ▶ 星田駅北全体⇒星田小学校区 • 旭小学校区(1)



~住宅戸数~

(A) 戸建住宅 162戸

(B) 戸建住宅 138戸、共同住宅 389戸

星田駅北全体を第三中学校区とする場合で、当該地域を星田小学校区と旭小学校区に分ける場合、下の1)2)の場合が考えられる。

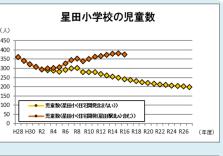
1) (A) ⇒ 星田小学校区 (B) ⇒ 旭小学校区

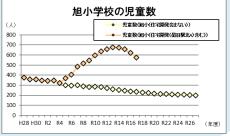
2) (A) ⇒ 旭小学校区

(B) ⇒ 星田小学校区

※ (A)(B)以外の区域については、住居以外の用途となる見込み







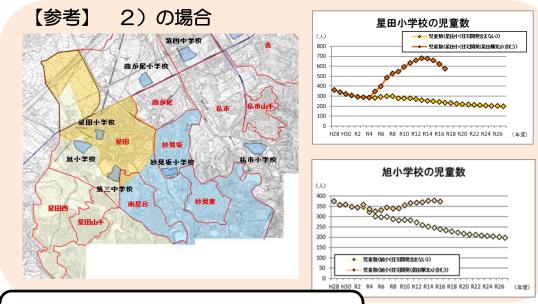
1)の場合、星田小学校、旭小学校の小規模化の課題は解消される。

※2)の場合も同様

Û

この場合、第三中学校区として残る課題は、 妙見坂小学校の小規模化及び各学校施設の 老朽化となる。

※1)と2)で大きく児童数が異なることはないため(Bの方が若干児童数が多くなる見込み)、以下、1)の図にて検討するものとする。



星小・妙小を統合し、 妙小敷地に新しい小学校を設置した場合

#### 学校統合案(16)

第四中学校 集市小学校 是田西 全田西 全田西 全田山手 (学校数 3)

(星田小学校敷地面積:11,169㎡)

#### 星小・妙小を統合し、

星小敷地に新しい小学校を設置した場合

#### メリット

将来的な妙見坂小学校の小規模化が解消される。

#### デメリット

- 星田小学校敷地は敷地面積が小さい。
- ・通学距離が延びる地域がある。(最長約2.0km)
- 他の小学校区をまたいでの通学となる地域がある。

#### 学校統合案(17)

#### メリット

- ・ 将来的な妙見坂小学校の小規模化が解消される。
- 妙見坂小学校敷地は比較的敷地面積が大きい。

#### デメリット

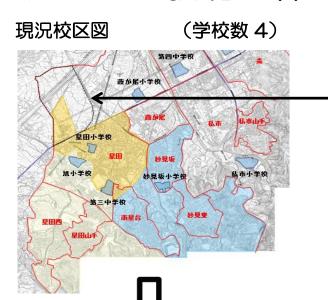
- 通学距離が延びる地域がある。(最長約1.6km) (星田5丁目や星田北7丁目などの地域では、すぐ近くにある旭 小学校を通過しての通学となる。)
- 他の小学校区をまたいでの通学となる地域がある。



うち、3,341㎡は実験実習地)

# 第三中学校区の適正配置案(16)

# ◆ 星田駅北全体⇒星田小学校区・旭小学校区(2)



~住宅戸数~

(A) 戸建住宅 162戸

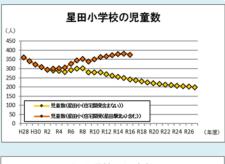
(B) 戸建住宅 138戸、共同住宅 389戸

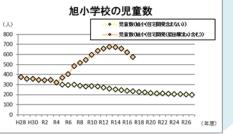
星田駅北全体を第三中学校区とする場合で、当該地域を星田小学校区と旭小学校区に分ける場合、下の1)2)の場合が考えられる。

1) (A) ⇒ 星田小学校区 (B) ⇒ 旭小学校区

2) (A) ⇒ 旭小学校区(B) ⇒ 星田小学校区

※ (A) (B) 以外の区域については、住居以外の用途となる見込み





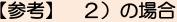
1)の場合、星田小学校、旭小学校の小規模化の課題は解消される。

※2)の場合も同様

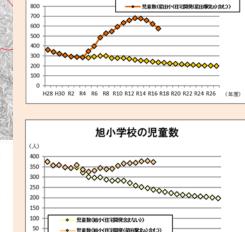
#### Û

この場合、第三中学校区として残る課題は、 妙見坂小学校の小規模化及び各学校施設の 老朽化となる。

※1)と2)で大きく児童数が異なることはないため(Bの方が若干児童数が多くなる見込み)、以下、1)の図にて検討するものとする。







星田小学校の児童数

妙小・旭小を統合し、

旭小敷地に新しい小学校を設置した場合

#### 学校統合案(18)

妙小・旭小を統合し、 妙小敷地に新しい小学校を設置した場合

# 

#### (妙見坂小学校敷地面積:25,271㎡ うち、3,341㎡は実験実習地)

#### メリット

- ・将来的な妙見坂小学校の小規模化が解消される。(第三中学校区の各学校で長期的に適正規模となる見込み。)
- ・妙見坂小学校敷地は比較的敷地面積が大きい。

#### デメリット

- ・通学距離が2kmを超える地域がある。(最長約2.6km) (星田4丁目や星田6丁目などの地域では、すぐ近くにある 星田小学校を通過しての通学となる。)
- ・他の小学校区をまたいでの通学となる地域がある。

### 学校統合案(19)



(旭小学校敷地面積:19.735㎡)

#### メリット

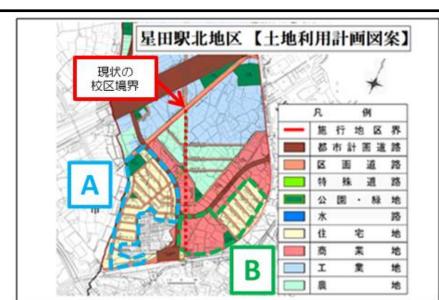
- ・将来的な妙見坂小学校の小規模化が解消される。(第三中学校区の各学校で長期的に適正規模となる見込み。)
- ・旭小学校敷地は隣接する旧給食センター敷地(1,322㎡) を活用することで敷地面積が大きくなる。

- 通学距離が2kmを超える地域がある。(最長約2.4km)
- 他の小学校区をまたいで、または、迂回しての通学となる 地域がある。

# 第三中学校区の適正配置案(17)

## 星田駅北全体⇒星田小学校区・旭小学校区(3)

現況校区図 (学校数 4) 藤が尾小学校



~住宅戸数~

(A) 戸建住宅 162戸

(B) 戸建住宅 138戸、共同住宅 389戸

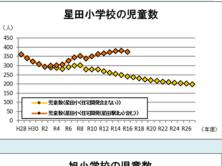
星田駅北全体を第三中学校区とする場合で、当該地域を星田小学校区 と旭小学校区に分ける場合、下の1)2)の場合が考えられる。

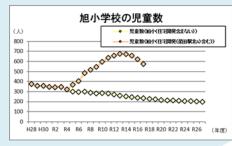
1) (A) ⇒ 星田小学校区 (B) ⇒ 旭小学校区

2) (A) ⇒ 旭小学校区 (B) ⇒ 星田小学校区

(A) (B) 以外の区域については、住居以外の用途となる見込み

1) 藤が尾小学校



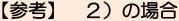


1) の場合、星田小学校、旭小学校の小規 模化の課題は解消される。

※2)の場合も同様

この場合、第三中学校区として残る課題は、 妙見坂小学校の小規模化及び各学校施設の 老朽化となる。

※1)と2)で大きく児童数が異なるこ とはないため(Bの方が若干児童数が多く なる見込み)、以下、1)の図にて検討 するものとする。

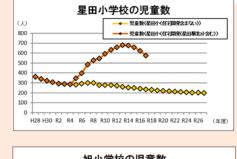


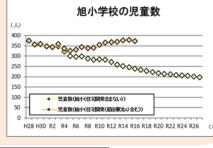


妙小・旭小・三中を統合し、

メリット

三中敷地に新しい小中学校を設置した場合





星小・妙小・三中を統合し、

三中敷地に新しい小中学校を設置した場合

#### 小中学校統合案(8)

(学校数 2)

#### メリット

- ・将来的な妙見坂小学校の小規模化が解消される。
- 第三中学校敷地は比較的敷地面積が大きい。

#### デメリット

- 通学距離が延びる地域がある。(最長約1.5km) (星田5丁目や星田北7丁目などの地域では、すぐ近くに ある星田小学校を通過しての通学となる。)
- 小中一貫教育を行う上で、中学校区内の小学生の間に 教育機会等の不均等が生じるおそれがある。
- 他の小学校区をまたいでの通学となる地域がある。 (第三中学校敷地面積:23,095㎡)

# 藤が尾小学校 (学校数 2)

#### デメリット

• 通学距離が延びる地域がある。(最長約2.0km) (星田北6丁目などの地域では、すぐ近くにある星田小学校 を通過しての通学となる。)

(第三中学校区の各学校で長期的に適正規模となる見込み。)

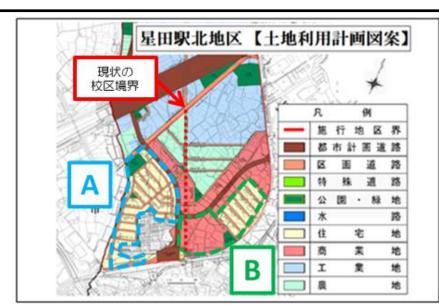
- ・小中一貫教育を行う上で、中学校区内の小学生の間に 教育機会等の不均等が生じるおそれがある。
- (第三中学校敷地面積:23,095㎡) ・他の小学校区をまたいでの通学となる地域がある。

・将来的な妙見坂小学校の小規模化が解消される。

第三中学校敷地は比較的敷地面積が大きい。

# 第三中学校区の適正配置案(18)

## ◆ 星田駅北全体⇒星田小学校区 • 旭小学校区 (4)

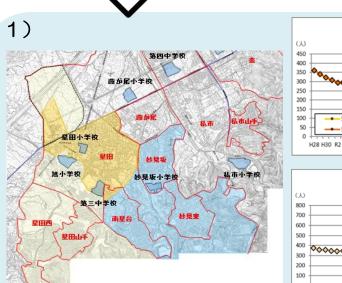


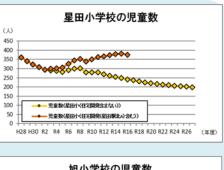
~住宅戸数~

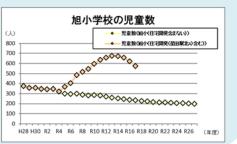
- (A) 戸建住宅 162戸
- (B) 戸建住宅 138戸、共同住宅 389戸

星田駅北全体を第三中学校区とする場合で、当該地域を星田小学校区と旭小学校区に分ける場合、下の1)2)の場合が考えられる。

- 1) (A) ⇒ 星田小学校区
  - (B) ⇒ 旭小学校区
- 2) (A) ⇒ 旭小学校区
  - (B) ⇒ 星田小学校区
- ※ (A) (B) 以外の区域については、住居以外の用途となる見込み







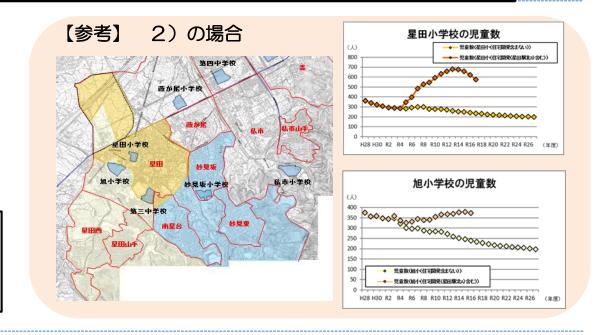
1)の場合、星田小学校、旭小学校の小規模化の課題は解消される。

※2)の場合も同様

#### 1

この場合、第三中学校区として残る課題は、 妙見坂小学校の小規模化及び各学校施設の 老朽化となる。

※1)と2)で大きく児童数が異なることはないため(Bの方が若干児童数が多くなる見込み)、以下、1)の図にて検討するものとする。



#### 小中学校統合案(6)

星小・妙小・旭小・三中を統合し、 三中敷地に新しい小中学校を設置した場合



#### メリット

- ・ 将来的な妙見坂小学校の小規模化が解消される。
- ・第三中学校敷地は比較的敷地面積が大きい。
- 小中一貫教育の成果を認識しやすい教育環境が確保できる。

#### デメリット

- (新) 小学校で長期的に適正規模を上回る見込みである。
- ・通学距離が延びる地域がある。(最長約2.0km)

(第三中学校敷地面積:23,095㎡)

(学校数 1)

# 第三中学校区の適正配置案(19)

## 星田駅北⇒ 第四中学校区(1)

# 現況校区図 (学校数 4) 星田北全体(黒破線内の区域)では、 689戸程度の住宅開発が予定されている。 星田駅北を第四中学校区とした場合

#### ~第三中学校区の課題~

#### 星田小学校

将来的に小規模化する見込みである。

#### 妙見坂小学校

将来的に小規模化する見込みである。

#### 旭小学校

将来的に小規模化する見込みである。

※学校施設については、星田小学校、妙見坂小学校、 旭小学校、第三中学校のすべての学校施設が築後 40年以上経過する校舎棟があるなど、老朽化が 進んでいる。



#### メリット

藤が尾小学校が将来的にも適正規模で推移する見込みとなる。(第四中学校区)

#### デメリット

- ・中学校区をまたぐ校区変更となる地域がある。(星田北7丁目)
- 校区変更により通学距離が延びる地区がある。
- 星田小学校の将来的な小規模化の課題が残る。

旭小学校

メリット

星小・妙小を統合し、

• 将来的な星田小学校及び妙見坂小学校の小規模化が 解消される。

#### デメリット

星田小学校敷地は敷地面積が小さい。

星小敷地に新しい小学校を設置した場合

- ・通学距離が延びる地域がある。(最長約2.0km)
- ・将来的に旭小学校が小規模化する見込みである。

#### 学校統合案(21



うち、3,341㎡は実験実習地)

#### 星小・妙小を統合し、

妙小敷地に新しい小学校を設置した場合

#### メリット

- ・将来的な星田小学校及び妙見坂小学校の小規模化が 解消される。
- 妙見坂小学校敷地は比較的敷地面積が大きい。

#### デメリット

- 通学距離が延びる地域がある。(最長約1.5km) (星田5丁目などの一部の地区では、すぐ近くにある旭小学校 を通過しての通学になる。)
- (妙見坂小学校敷地面積:25,271㎡・将来的に旭小学校が小規模化する見込みである。

#### (星田小学校敷地面積:11,169㎡)

(学校数3)

# 第三中学校区の適正配置案 (20)

## ◆ 星田駅北⇒ 第四中学校区(2)

星田北全体(黒破線内の区域)では、 689戸程度の住宅開発が予定されている。

星田駅北を第四中学校区とした場合

#### ~第三中学校区の課題~

#### 星田小学校

将来的に小規模化する見込みである。

#### 妙見坂小学校

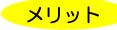
将来的に小規模化する見込みである。

#### 旭小学校

将来的に小規模化する見込みである。

※学校施設については、星田小学校、妙見坂小学校、 旭小学校、第三中学校のすべての学校施設が築後 40年以上経過する校舎棟があるなど、老朽化が 進んでいる。

(学校数 4)



・藤が尾小学校が将来的にも適正規模で推移する見込みとなる。(第四中学校区)



- ・中学校区をまたぐ校区変更となる地域がある。(星田北7丁目)
- 校区変更により通学距離が延びる地区がある。
- 星田小学校の将来的な小規模化の課題が残る。

#### 学校統合案(22)

星小・旭小を統合し、

星小敷地に新しい小学校を設置した場合



#### メリット

- 将来的な星田小学校及び旭小学校の小規模化が解消される。
- 改修した星田小学校施設の使用が可能となる。
- 学校間の距離が近接しているため、通学距離が大きく 延びる地域がない。(最長約2.2km)

#### デメリット

- 星田小学校敷地は敷地面積が小さい。
- ・将来的に妙見坂小学校が小規模化する見込みである。

#### 字校統合案(23)

# 

### メリット

旭小敷地に新しい小学校を設置した場合

星小・旭小を統合し、

- 将来的な星田小学校及び旭小学校の小規模化が解消される。
- ・妙見坂小学校敷地は比較的敷地面積が大きい。
- ・学校間の距離が近接しているため、通学距離が大きく 延びる地域がない。(最長約1.9km)

#### デメリット

• 将来的に妙見坂小学校が小規模化する見込みである。

(星田小学校敷地面積:11,169㎡)

(旭小学校敷地面積:19,735㎡)

# 第三中学校区の適正配置案(21)

## 星田駅北⇒ 第四中学校区(3)

# 現況校区図 (学校数 4)

星田北全体(黒破線内の区域)では、 689戸程度の住宅開発が予定されている。

星田駅北を第四中学校区とした場合

#### ~第三中学校区の課題~

#### 星田小学校

将来的に小規模化する見込みである。

#### 妙見坂小学校

将来的に小規模化する見込みである。

#### 旭小学校

将来的に小規模化する見込みである。

※学校施設については、星田小学校、妙見坂小学校、 旭小学校、第三中学校のすべての学校施設が築後 40年以上経過する校舎棟があるなど、老朽化が 進んでいる。



メリット

藤が尾小学校が将来的にも適正規模で推移する見込みとなる。(第四中学校区)



- •中学校区をまたぐ校区変更となる地域がある。(星田北7丁目)
- 校区変更により通学距離が延びる地区がある。
- 星田小学校の将来的な小規模化の課題が残る。



妙小・旭小を統合し、

妙小敷地に新しい小学校を設置した場合

#### 学校統合案(25)

妙小・旭小を統合し、 旭小敷地に新しい小学校を設置した場合



(妙見坂小学校敷地面積:25,271㎡ うち、3,341㎡は実験実習地)

#### メリット

- ・将来的な妙見坂小学校及び旭小学校の小規模化が解消される。 (第三中学校区の各学校で長期的に適正規模となる見込み。)
- ・ 妙見坂小学校敷地は比較的敷地面積が大きい。

#### デメリット

- 通学距離が2kmを超える地域がある。 (最長約2.6km) (星田4丁目や星田6丁目などの地域では、すぐ近くにある 星田小学校を通過しての通学となる。)
- 他の小学校区をまたいでの、または、迂回しての通学と なる地域がある。
- ・将来的に星田小学校が小規模化する見込みである。



(旭小学校敷地面積:19,735㎡)

#### メリット

- 将来的な妙見坂小学校及び旭小学校の小規模化が解消される。 (第三中学校区の各学校で長期的に適正規模となる見込み。)
- 旭小学校敷地は隣接する旧給食センター敷地(1,322㎡) を活用することで敷地面積が大きくなる。

- 通学距離が2km程度になる地域がある。 (最長約2.4km)
- ・他の小学校区をまたいでの、または、迂回しての通学と なる地域がある。
- ・将来的に星田小学校が小規模化する見込みである。

# 第三中学校区の適正配置案(22)

## ◆ 星田駅北⇒ 第四中学校区(4)

現況校区図 (学校数 4)

| 全田北全体 (黒破線内の区域)では、689戸程度の住宅開発が予定されている。 | 全田駅北は第四中学校区に校区変更した場合

#### ~第三中学校区の課題~

#### 星田小学校

将来的に小規模化する見込みである。

#### 妙見坂小学校

将来的に小規模化する見込みである。

#### 旭小学校

将来的に小規模化する見込みである。

※学校施設については、星田小学校、妙見坂小学校、 旭小学校、第三中学校のすべての学校施設が築後 40年以上経過する校舎棟があるなど、老朽化が 進んでいる。



メリット

藤が尾小学校が将来的にも適正規模で推移する見込みとなる。(第四中学校区)



- 中学校区をまたぐ校区変更となる地域がある。(星田北7丁目)
- 校区変更により通学距離が延びる地区がある。
- 星田小学校の将来的な小規模化の課題が残る。

#### 学校統合案(26)

星小・妙小・旭小を統合し、 星小敷地に新しい小学校を設置した場合



#### メリット

・将来的な星田小学校、妙見坂小学校及び旭小学校の 小規模化が解消される。

#### デメリット

- ・通学距離が2kmを超える地域がある。(最長約2.2km)
- 星田小学校敷地は敷地面積が小さい。
- (新)小学校で適正規模を上回る見込みである。

#### 学校統合案(27)

星小・妙小・旭小を統合し、 妙小敷地に新しい小学校を設置した場合



#### メリット

- ・将来的な星田小学校、妙見坂小学校及び旭小学校の 小規模化が解消される。
- ・妙見坂小学校敷地は比較的敷地面積が大きい。

#### デメリット

- 通学距離が2kmを超える地域がある。(最長約2.6km)
- (新)小学校で適正規模を上回る見込み。

(星田小学校敷地面積:11,169㎡)

(妙見坂小学校敷地面積: 25,271㎡ うち、3,341㎡は実験実習地)

# 第三中学校区の適正配置案(23)

## ◆ 星田駅北⇒ 第四中学校区(5)

現況校区図 (学校数 4) **星田北全体** (黒破線内の区域)では、689戸程度の住宅開発が予定されている。 **星田駅北は第四中学校区に校区変更した場合** 

#### ~第三中学校区の課題~

#### 星田小学校

将来的に小規模化する見込みである。

#### 妙見坂小学校

将来的に小規模化する見込みである。

#### 旭小学校

将来的に小規模化する見込みである。

※学校施設については、星田小学校、妙見坂小学校、 旭小学校、第三中学校のすべての学校施設が築後 40年以上経過する校舎棟があるなど、老朽化が 進んでいる。



メリット

藤が尾小学校が将来的にも適正規模で推移する見込みとなる。(第四中学校区)



- ・中学校区をまたぐ校区変更となる地域がある。
- 校区変更により通学距離が延びる地区がある。
- 星田小学校の将来的な小規模化の課題が残る。

#### 学校統合案(28)

星小・妙小・旭小を統合し、

旭小敷地に新しい小学校を設置した場合



#### メリット

- ・将来的な星田小学校、妙見坂小学校及び旭小学校の小規模化が解消される。
- ・旭小学校敷地は隣接する旧給食センター敷地(1,322㎡) を活用することで敷地面積が大きくなる。

#### デメリット

- 通学距離が2kmを超える地域がある。(最長約2.1km)
- (新) 小学校で適正規模を上回る見込み。

(旭小学校敷地面積:19,735㎡)

# 第三中学校区の適正配置案(24)

# ◆ 星田駅北⇒ 第四中学校区(6)

現況校区図

(学校数 4)

星田北全体(黒破線内の区域)では、 689戸程度の住宅開発が予定されている。

星田駅北は第四中学校区に校区変更した場合

#### ~第三中学校区の課題~

#### 星田小学校

将来的に小規模化する見込みである。

#### 妙見坂小学校

将来的に小規模化する見込みである。

#### 旭小学校

将来的に小規模化する見込みである。

※学校施設については、星田小学校、妙見坂小学校、 旭小学校、第三中学校のすべての学校施設が築後 40年以上経過する校舎棟があるなど、老朽化が 進んでいる。



メリット

• 藤が尾小学校が将来的にも適正規模で推移する見込みとなる。(第四中学校区)



- ・中学校区をまたぐ校区変更となる地域がある。
- 校区変更により通学距離が延びる地区がある。
- 星田小学校の将来的な小規模化の課題が残る。



星小・妙小・三中を統合し、

三中敷地に新しい小中学校を設置した場合

#### 小中学校統合案(10)



#### メリット

- ・将来的な星田小学校及び妙見坂小学校の小規模化が解消される。 (第三中学校区の各学校で長期的に適正規模となる見込み。)
- 第三中学校敷地は比較的敷地面積が大きい。

#### デメリット

- 通学距離が延びる地域がある。 (最長約1.5km)
- ・小中一貫教育を行う上で、中学校区内の小学生の間に 教育機会等の不均等が生じるおそれがある。
- ・将来的に旭小学校が小規模化する見込みである。

#### 小中学校統合案(11)



メリット

・将来的な星田小学校、妙見坂小学校及び旭小学校の 小規模化が解消される。

三中敷地に新しい小中学校を設置した場合

第三中学校敷地は比較的敷地面積が大きい。

星小・妙小・旭小・三中を統合し、

・小中一貫教育の成果を認識しやすい教育環境が確保できる。

#### デメリット

- (新) 小学校で適正規模を上回る見込み。
- ・ 通学距離が延びる地域がある。 (最長約2.0km)

(第三中学校敷地面積:23,095㎡)

(第三中学校敷地面積:23,095㎡)